

1. 研究テーマ

内視鏡下鼻内副鼻腔手術のアウトカムについての研究

2. 研究の背景これまでの研究の概要

近年光学医療機器の発展に伴い、耳鼻咽喉科領域では内視鏡下鼻内副鼻腔手術を行う頻度が増している。全国では年間約3万件以上施行されており¹⁾、当院でも年間50症例前後施行されている。一方で技術・手法は年々変化を遂げているため、患者により良い治療を提供するためには、正確な治療効果と安全性、合併症・副損傷については最近のデータについて評価する必要がある。

本研究において当科では、令和6年4月1日以降、当科にて経鼻内視鏡手術を施行された症例に関して、手術のアウトカム（治療効果、合併症、副損傷）について評価を行うことを目的とする。

3. 研究の目的

主要目的：内視鏡下鼻内副鼻腔手術による治療効果を評価する

副次目的：内視鏡下鼻内副鼻腔手術における合併症、副損傷について評価する

4. 研究の方法

(1) 選択基準：令和6年4月以降、当院にて内視鏡下鼻内副鼻腔手術を
施行した患者

(2) 方法：令和6年4月以降に当院で内視鏡下鼻内副鼻腔手術を施行した患者
について、その治療効果について以下の項目で評価を行う。

患者自覚症状（鼻閉スコア、嗅覚スコア、鼻漏スコア、VASスコ
ア、NSQ質問紙表など）

内視鏡所見（鼻茸スコアなど）、画像(CT, MRI)所見（Lund-Mackey
スコアなど）、鼻生理機能検査所見（基準嗅覚検査、静脈性嗅覚検
査、鼻腔通気度検査、呼気NO検査など）

副次目的

令和6年4月以降に当院で内視鏡下鼻内副鼻腔手術を施行した患者につい
て、その術中・術後の合併症、副損傷について以下の項目で評価を行う。

（合併症、副損傷の発生有無と頻度、種別）

(3) 検討項目：被験者背景(生年月日、性別、既往歴、合併症、アレルギーの

有無) 画像診断:造影・単純 副鼻腔 CT (Lund-Mackey スコア
など) 造影・単純 副鼻腔 MRI、経鼻内視鏡所見（鼻茸スコア
など）、身体所見(PS、身長、体重、血圧、脈拍、体温)

臨床検査(血液学的検査、生物学的検査、腫瘍マーカー)

病理学的検査 組織診 (HE 染色、グロコット染色、免疫染色

など)、臨床所見(鼻閉スコア、嗅覚スコア、鼻漏スコア、質問

紙表検査 (SNOT-22、NSQ など)、鼻腔通気度検査、手術記録、

詳細術式、手術時間、出血量、術中合併症の有無・程度

(4) 危険性・副作用等

通常の鼻内内視鏡手術に伴う合併症リスク

5. 参考文献

- 1) 春名 眞一. 内視鏡下鼻内副鼻腔手術における合併症の予防と対策.日耳鼻
(2019); 122(5): 800

6. 研究期間

2026年2月24日 ～ 在職期間中 (研究責任者)

7. 研究責任者

耳鼻咽喉科 平岡 晃太